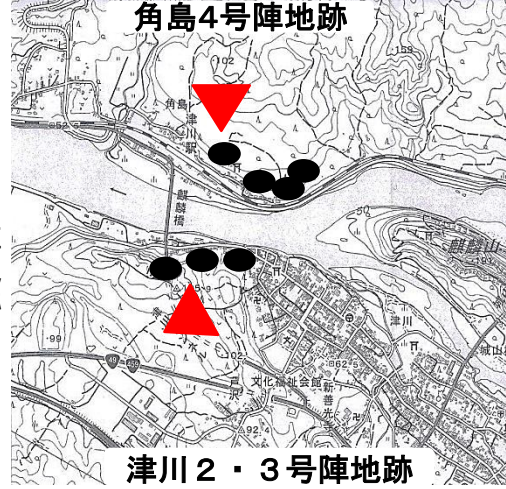


新潟県阿賀町

津川・角島陣地跡

戊辰・会津戦争の遺構

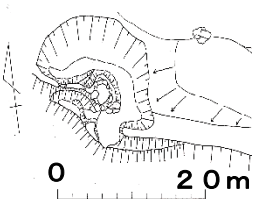


角島4号陣地跡
津川2・3号陣地跡

角島4号陣地跡

津川の対岸、阿賀町角島の磐越西線津川駅北東斜面に西軍が築いた戊辰戦争の陣地跡が四力所確認できます。東側の津川城に近い方から角島1号、2号、3号、4号の四ヶ所あります。角島1号陣地跡は平場が削平されたものです。角島観音堂裏にある角島3号陣地跡は削平された平場が二力所あり、地跡は削平された平場が二力所あり、集落裏の斜面地中間部分の平場に長さ十五メートルで残されています。

発見・実測石田



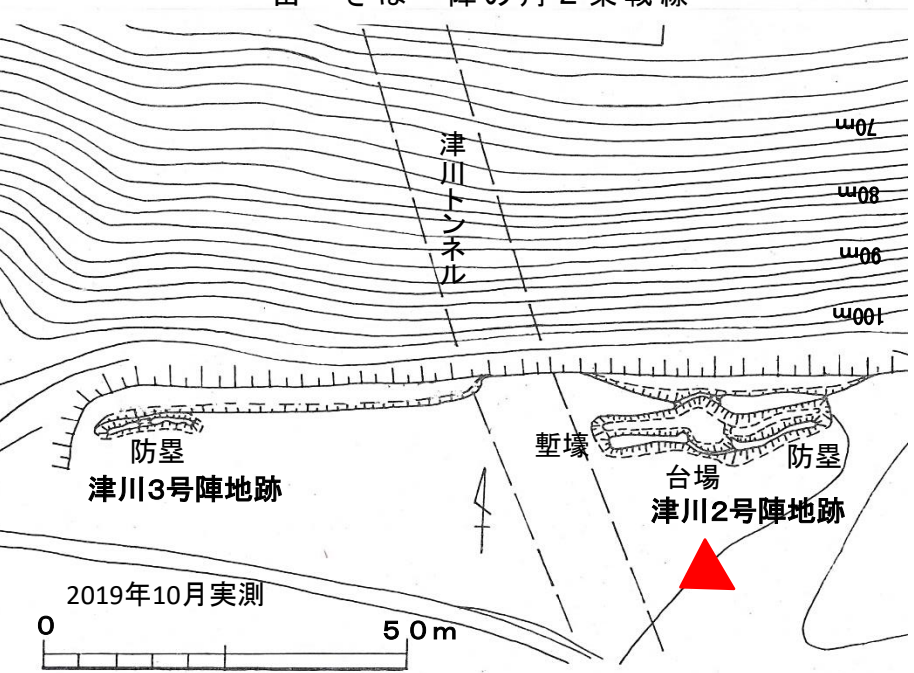
2019年11月実測

角島4号陣地跡

戊辰戦争以降、炭坑の一部が改変されていますが、50センチの土が東西にあり、高さが異なります。

津川2号・3号陣地跡

戊辰戦争がった一八六八年八月十七日、激しい戦いがありました。津川の西側、御小屋館跡西の丘陵上には、会津藩が七ヶ所「胸壁」と呼んだ陣地跡が構築され、現在三力所が残されています。特に2号陣地跡の残りが良い。津川1号陣地跡は、御小屋館の一曲輪に残され、長さ三十八メートルの防壁で、台場も兼ねています。津川2号陣地跡は、津川トンネルの上にあります。長さ三十三メートルの土塁と塹壕で台場も兼ねています。塹壕は、前面の土塁からの深さが一八〇センチあり、土塁は塹壕の底から三メートル高くなっています。津川3号陣地跡は長さ十五メートルの土塁で高さは一〇〇センチです。他は、耕作等で失われたものと思われる。発見石田、堀口 実測石田



1868年8月16日・17日

一八六八年八月の記録

十六日『旧記諷録(きゆうきしゅうろく)』
「八月十六日午前四ツ時ヨリ敵軍角島村ニ来ル。身方ハ麒麟山ノ半腹並ニ関門金比羅ノ社、西村道ノ山頂都合七ヶ所ノ胸壁ヲ築キ待至タリ。敵勢角島村ニ来ルヤ否、七ヶ所ノ胸壁ヨリ揚川ヲ隔テ々砲発シケレハ敵軍三、四十人忽(すなわ)チ砲下ニ斃(たお)ル。手負ヲ扶助シ死人ヲ運搬セントスル所、身方鯨波ヲ揚ケテ大小銃ニテ追フ。依テ敵勢、角島村ノ上ノ杉林ニ胸壁ヲ築キ又揚川ノ岸ナル大樑ノ下ヨリ小銃ヲ発シ、三本松ヨリ大砲以テ戦フトイヘトモ利アラザルヲ知り戦ヲ止テ柳新田ノ本陣ニ引返ル」

十六日『若松記節略』
「十六日昼前、四ツ時頃ニモ可有之哉、諏訪峠ニテ小銃之音三発計リ聞ヘ最早敵サクリヲ打押寄候ニ相違有之間敷ト直様面々支度相整ヘ大小砲ヘ玉込致、今ヤ遅シト待居候処峠ヨリ追々下リ来リ敵人数四、五百人ト相見ヘ、柳新田村辺ヨリ直様(すぐさま)、角島村横渡場迄下リ、其頃舟モ不残引上置候ニ付、敵モ大河ヲ越候儀不相成。爰(ここ)彼所ヲ見廻居候体ニテ夫ヨリ館跡一ノ胸壁辺ニテ砲発始候哉否、兼テ待設シ一統之事ナレハ面々発砲小銃打又ハ大砲或ハ矢声ヲ上ケ敵ニテモ盛ニ発砲。双方ノ響キ雷ノ如ク。高烟(こうえん)上リ其中ニ大砲之筒先ヘ出候火之光電ノ如ク誠ニ烈戦ニ御座候」
「此時味方死傷一人モナク大勝利、夫(これ)ヨリ連日胸壁ヘ番兵張り聊(いささか)油断ナク相守ル」
十七日『若松記節略』
「我隊(朱雀隊)附属修験隊、砲兵隊、結義隊、五十島へ著す。其夜番兵ヲ置」
十七日『結草録』
「十七日矢沢駅へ着。午後二至リ再、五十島へ出兵ノ命アリ乃(すなわ)チ谷沢ヲ発シ砲兵隊ト共ニ日暮五十島ニ至ル。町野隊三月沢関門ニ出張シ偶、爰(ここ)ニ止宿」